

／ 南丹市 ／

福祉教育プログラム集

小学校・中学校・高等学校向け



目 次

01

なぜ、福祉教育が必要なのでしょう？

2

02

本冊子の使い方

3

03

福祉教育プログラムの紹介

- ① 福祉って何だろう? 4
- ② ユニバーサルデザインについて考えよう 6
- ③ 視覚障がいについて（アイマスク体験） 7
- ④ 聴覚障がいについて 8
- ⑤ 募金って何だろう? 9
- ⑥ 車いす体験 10
- ⑦ 認知症について 11
- ⑧ ピクトグラムを作ろう！ 12
- ⑨ 体験を通じて学び合おう（高齢・障がい疑似体験） 14
- ⑩ 防災について考える 16
- ⑪ 知ろう！つながろう！私たちの地域 18
- ⑫ ボランティア活動について知ろう 19

04

福祉教育に使える！貸し出し物品一覧

20

05

生徒や保護者の方よりいただいた感想

22

06

連絡先一覧

23

なぜ、福祉教育が必要なのでしょう？

福祉教育は、人権教育を基本としつつ、一人ひとりが互いを認め合い「相手を思いやる力」や「共に生きる力」を育むことを目的とした教育実践です。

授業では「老いること」や「障がいがあるということ」など、身近に感じていても学ぶ機会の少ないテーマを扱っています。

地域には障がいのある方や高齢者、貧困世帯、外国籍の方など、多様な背景を持つ人が暮らしています。

お互いの思いやりの心が一層必要とされている中で、福祉教育はその契機となるはずです。

私たちは、子どもたちだけではなく、周りの大人たちも一緒に福祉について学ぶことで、南丹市が多様な生き方が受け入れられる地域になることを目指しています。

社会福祉法人 南丹市社会福祉協議会について

社会福祉協議会（以下、社協）は、社会福祉活動を推進することを目的とした、非営利の民間組織であり、社会福祉法に基づき設置されています。

■ 主な業務内容

1. 福祉の総合相談窓口

介護、障がい、家計に関することなど、福祉に関する様々な相談に対応しています。

2. 地域活動支援

ボランティア活動や防災活動をはじめとする地域活動を、地域住民と協働して推進しています。市内での福祉教育の推進にも力を入れています。

3. 各事業所の運営

デイサービスセンターや障がい者支援施設など、福祉に関する様々な事業を展開しています。



大谷大学との交流



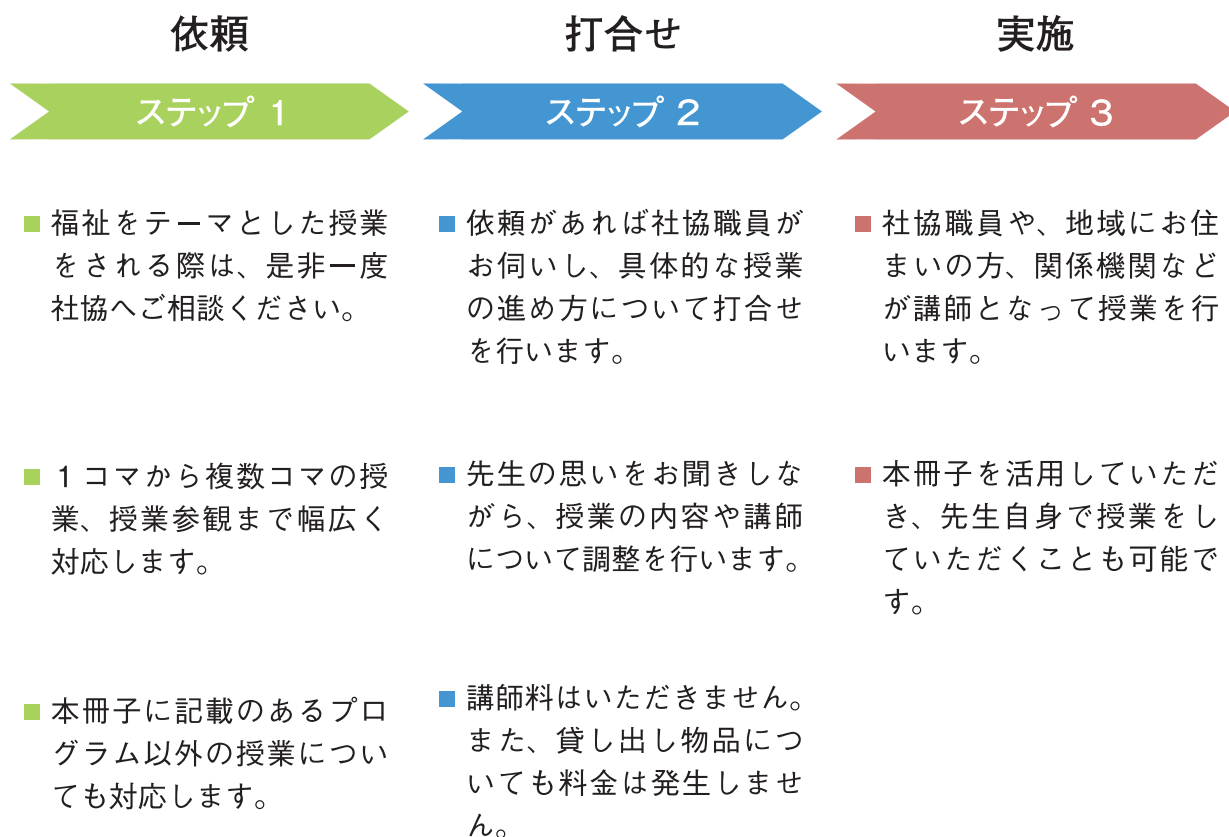
小規模多機能ホーム だんない

本冊子では、福祉に関して様々な視点から学ぶことが出来るよう複数のプログラムをご紹介します。

各プログラムは地域の方々や、社協職員などが講師となってお話をさせていただいたり、先生方が授業でご活用いただくこともできるように作成しています。その際は、授業の進め方についての打ち合わせもできますので、お気軽にご相談ください。

また社協では、授業で使うことのできるグッズの貸し出しを行っています。20ページの貸し出し物品一覧もご参照ください。

授業実施までの流れ



プログラム 1

福祉って何だろう？

テーマについて

昨今の日本において「福祉」という言葉を耳にする機会が増えてきました。しかし、言葉の意味は多岐に渡っています。

このテーマでは、「福祉」という言葉について、ゲームやワークを交えながら楽しく学びます。福祉教育の導入として取り入れることをお勧めします。

目標（ねらい）

- ・福祉とは「ふだんのくらしをしあわせにすること」であることを学ぶ。
- ・「しあわせ」は一人ひとり違いがあることを学ぶ（多様性の尊重）。



	学習内容	学習活動
1	導入／アイスブレイク	・「福祉」という言葉について聞いたことがあるかを質問する。 ・アイスブレイクを目的に、生活班に分かれて連想ゲームを行う。 (テーマ：①緑の食べ物といえば？②しあわせとは？③福祉とは？)
2	個人ワーク 「“役わりの木”を描こう」	・「自分の役割」について考え、木のイラストへ反映させる。 ・家庭や学校、習い事など様々な場面において、人には役割があることを説明する。 ・役割を持つことが、幸せに繋がっていると説明する。
3	まとめ「みんなちがって みんないい」	・自分が書いた「役わりの木」を周りの生徒（児童）たちと見比べ、色や形、役割の種類は人によって違うことを認識させる。 ・世界には様々な人が暮らしており、それぞれの幸せについて考えることが「福祉」であることを伝える。
【必要コマ数】 1 コマ (45 分～ 50 分) 【必要な物品】 A4 白紙 × 人数分、A3 白紙 × 人数分		

PICK UP

連想ゲームについて

- ①生活班に分かれる。
- ②「緑色の食べ物は？」等の質問に1分以内でできるだけ多く回答する。
- ③終了後、一番多く回答の出た班からどのような回答が出たかを発表する。

PICK UP

「役わりの木」について

福祉とは「ふだんのくらしをしあわせに」することであると説明しますが、「幸せとは何か」について説明することは非常に難しいと思います。

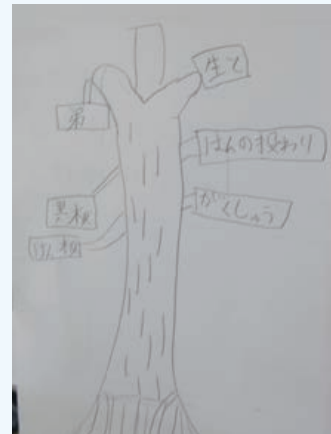
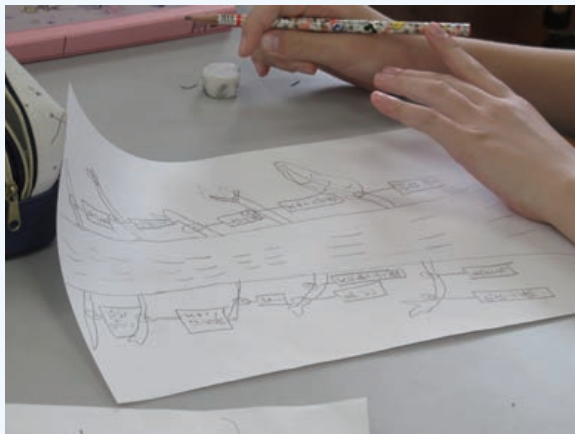
私たちは幸せについて「一人ひとりに役割があることが幸せである」と説明しています。

学校では友達と共に学び、様々な係を担ったり、家庭では家事の手伝いをしたりと、日常の中で人はそれぞれ役割があり、その役割を果たす事こそが自己肯定感(= 幸せ)へと繋がっていると考えています。

上記のようなことを踏まえ、「自分にはどんな役割があるのか」をワークを通して考えます。



<授業の様子>



テーマについて

近年、障がいのある人もない人も共に生活することが当たり前の社会を目指す「ノーマライゼーション」という考え方が広まりつつあり、その理念を具体化していく考え方として、バリアフリーやユニバーサルデザインがあります。高齢者や障がい者、外国人、子ども等すべての人が生活しやすい町づくりを考えるために「ユニバーサルデザイン」について学びます。

ユニバーサルデザインは「物」を考える以前に「人」について考えることであり、思いやりの心を持つことが重要です。

目標(ねらい)

- ・ユニバーサルデザインの意味について理解する。
- ・ユニバーサルデザインの様々な工夫について知ることで、周囲への思いやりの心を育む。
- ・地域には様々な人が暮らしていることを知る。



	学習内容	学習活動
1	導入	・地域には高齢者や障がい者、外国人、子ども等、様々な人が暮らしていることを説明する。 ・ユニバーサルデザインの起源や目的について説明する。
2	ユニバーサルデザインの様々な工夫を見つけよう	・実寸大の自動販売機のパネルを 2 種類用意。1 つは一般的なもの、もう 1 つはユニバーサルデザイン仕様のもの。 ・スタッフが“高齢者”“外国人”“妊婦”“視覚障がい者”等の役に扮し、実際に 2 種類の自動販売機を使用する。生徒はそれぞれの自動販売機にどのような特徴があるのかを観察する。
3	まとめ	・ユニバーサルデザインは誰もが使いやすいデザインを目指しているが、達成するにはまだ時間がかかる事を伝える。 ・ユニバーサルデザインでカバーできない部分はお互いの助け合いが必要である事を伝える。
【必要コマ数】 1 コマ (45 分～ 50 分) 【必要な物品】 自動販売機パネル、妊婦疑似体験セットなど		

テーマについて

「視覚障がい」は目が見えない、あるいは見えにくい（ロービジョン）状態のことです。見えない・見えにくい状態だと、生活するうえでどのような大変なことがあるのか、またどんな工夫をして生活しているのかを知り、視覚障がい者について理解を深めます。

目標（ねらい）

- ・アイマスク体験を通じて、視覚障がいとはどのような状態か学ぶ。
- ・障がいによる困難を乗り越えながら生きる姿を理解し、障がい者の強みを学ぶ。
- ・視覚障がい者だけでなく、だれもが暮らしやすい社会・まちについて考える。

	学習内容	学習活動
1	導入	・視覚障がい（全盲、ロービジョン）の概要について説明する。 →事故や病気で後天的に視力を失うこともある（＝自分もなるかもしれない）。 →見え方は人によって大きく異なり、それによって必要な支援も異なる。
2	視覚障がいの疑似体験	・二人一組になる。一人がアイマスクを装着する。黒板にイラストを掲示し、アイマスクを付けていない生徒が装着している生徒に何が描かれているかを説明する。 ・アイマスクを外し、どのようなイラストなのかを紙に描く。描けた絵を見せ、説明がうまく伝わっているか確認する。
3	感想記入 意見交流	・アイマスクを装着した時にどう感じたかを共有する。 →絵の説明はわかりやすかったか、相手に説明をする時に気をつけたことなど。
4	視覚障がい者の生活を 助ける道具やサービス	・点字や白杖、読み上げ機能付き PC、盲導犬など、様々な道具やサービスを紹介する。
5	ユニバーサルデザイン について	・シャンプーなどのボトルの凸凹、センサー式蛇口などの紹介。 ・障がいの有無や年齢に関わらず「誰もが使いやすいこと」を伝える。
【必要コマ数】 2 コマ (90 分～ 120 分) 【必要な物品】 アイマスク、またはゴーグル		

テーマについて

音が聞こえない、または聞こえにくい状態を聴覚障がいといいます。聴覚障がいを持っておられる方の暮らしに触れ、コミュニケーションの方法を学ぶ中で、どうすれば誰もが過ごしやすいまちになるのかを考えます。

目標（ねらい）

- ・聴覚障がいとは何かを理解する。
- ・聴覚障がいのある人とのコミュニケーション方法について学ぶ。
- ・学習を通して、周りの人を思いやり尊重する心を育む。



	学習内容	学習活動
1	導入	・聴覚障がいとはどのような障がいで、聞こえ方には個人差があることを説明する。 ・コミュニケーション方法の種類について説明する。
2	体験・交流	・聴覚障がいのある方や手話通訳者と交流しながら手話を学ぶ。 ・挨拶、自分の名前など実際に使える身近な言葉を伝える。
3	まとめ	・体験や交流を通して感じたことなど、感想を共有する。 ・聴覚障がいのある方の暮らしを支えるために必要なことは何かを考え、共有する。
【必要コマ数】 1～2 コマ (45 分～ 100 分) 【必要な物品】 特になし 【協力団体】 ふない聴覚言語障害センター、南丹市内の手話サークル等		

テーマについて

赤い羽根共同募金は、自分たちの住む地域でも取り組まれている「たすけあい」活動であることを知るためのプログラムです。

募金箱の制作により、募金活動を進める一員として関わることができます。

目標（ねらい）

- ・ 赤い羽根共同募金は「自分のまちを良くするしくみ」であることを理解する。
- ・ 募金の南丹市内の使いみちを知る。
- ・ 募金箱の制作を通じて募金活動に関わることで、自分たちにできることがあることを知る。



	学習内容	学習活動
1	赤い羽根共同募金のしくみを知る	・ 赤い羽根共同募金について知っていることを出し合ってもらう。 ・ 募金のしくみや南丹市内での使いみちを説明する。 ・ 募金は強制的なものではなく自主的な活動であることを伝える。
2	募金箱を制作する	・ グループに分かれ、募金箱を制作する。 ・ 完成した募金箱を後日、町内の商店等に設置する。 ※商店等に置いた時に取扱いしやすい工夫が必要（倒れない、飾りが取れにくい工夫など）。
3	まとめ	・ 制作した募金箱が商店等に設置され、募金活動に役立つことを説明する。 ・ 自分のまちを良くするために、自分たちにできることがあるということを伝える。
※	結果発表	・ 可能であれば、募金運動期間終了後、集まった募金額を共有する。 ・ 募金活動に協力いただいた商店からのインタビューを紹介する。
【必要コマ数】 2 ～ 3 コマ (90 分～ 150 分) 【必要な物品】 募金箱に使う材料（空き箱や缶、装飾物等）		

テーマについて

誰もが見かけたことがある車いすでの移動を実際に体験し、バリアフリーの大切さを学びます。また、自分たちに出来ることは何かを考え、相手を思いやる心を育みます。

目標 (ねらい)

- ・ 車いすに乗っている人について理解する。
- ・ 車いすの正しい扱い方を知る。
- ・ バリアフリーの大切さに気付く。



	学習内容	学習活動
1	導入	・ どのような人が車いすを使っているのか想像し、車いすの役割を考える時間を設ける。 ・ 車いすの扱い方、乗降の仕方を説明する。
2	体験	・ 二～三人で一組になり、車いすに乗る人・介助する人を体験してもらう。 → 体育館などで障害物（マットや長椅子）のあるコースを通る。 → 障害物がある場合とない場合の違いに気づく。
3	まとめ	・ それぞれに感じたことを発表し、気付いた点を共有する。 ・ 車いす移動の不便さだけでなく、どうしたら快適に過ごせるようになるのか考えてもらう（バリアフリーの大切さ）。
【必要コマ数】 1 ～ 2 コマ (45 分～ 100 分) 【必要な物品】 車いす 【協力団体】 市内の社会福祉法人等		

テーマについて

近年「認知症とともに住み慣れた地域で希望をもって暮らせるような地域づくり」が全国で進められてきています。ゲームや映像を交えながら認知症の特性や認知症の方への関わり方などについて学びます。また認知症の方だけではなく、すべての人への思いやりの心が大切であることを学びます。

目標 (ねらい)

- ・ 認知症の特性を学ぶ。
- ・ 自分自身が地域でできることや役割に気づき、実践してもらえるような学習にする。
- ・ 親子人権学習などの時間に保護者の方々にも認知症について学んでいただき、認知症だけではなく福祉に関心を持っていたけような学習にする。



	学習内容	学習活動
1	導入	・ 認知症の特性について説明する。 ・ 認知症のイメージについて各自で考えてもらった後、認知症の方の生活のしづらさや思いについて説明する。
2	認知症の方が 住みやすい地域とは	・ “認知症サポーター” について説明する。 ・ 認知症の方のお話を映像で紹介する。 ・ 認知症の方も、そうでない方も、誰もが住みやすい地域について考えてもらう。
3	まとめ	・ 誰もが住みやすい地域にするために、自分自身には何ができるのかを考えてもらい、共有する。 ・ 認知症の方だけではなく、すべての人への思いやりの心が大切であることを伝える。
【必要コマ数】 1 ～ 2 コマ (45 分～ 90 分) 【必要な物品】 特になし 【協力団体】 なんとん口バの会 (南丹市認知症キャラバンメイト連絡会)		

テーマについて

ピクトグラムとは、トイレのマークに代表されるように何かの「情報」や「注意」を示すために表示される視覚記号、言わば「案内標識をイラストで表したもの」です。

言葉が分からなくても伝わるデザインについて考えることで、相手への思いやりの心を育みます。

目標（ねらい）

- ・ユニバーサルデザインについて理解を深める。
- ・誰もが分かりやすいデザインについて考えることで、相手への思いやりの心を学ぶ。



	学習内容	学習活動
1	ユニバーサルデザインについて	・身近にあるユニバーサルデザインについて紹介する（自動販売機、トイレ、シャンプーのボトルなど）。 ・触って分かるデザインだけではなく、見てわかるデザインもあることを説明する。
2	ピクトグラムについて	・ピクトグラムは「見てわかる」ユニバーサルデザインの一つであることを説明する。 →トイレのマークに代表されるように、言葉が分からなくても一目で何かが分かるデザインとなっている。
3	ピクトグラムをつくろう！	・自分が通う学校に外国人の転校生がやってくることを想定し、学校の各教室のピクトグラムをグループで考えてもらう。 ・担当する教室はくじで決める。
4	発表・共有	・なぜこのデザインにしたかななどを各グループで発表・共有。ユニバーサルデザインに不正解は無いので、どのグループにも新たな視点があることを見つける。

5	まとめ	ユニバーサルデザインを考えると、必ず使う人の顔を想像するはず。それこそが思いやりであり、日常生活においても非常に重要であることを伝える。
【必要コマ数】 2 ～ 3 コマ (90 分～ 120 分) 【必要な物品】 コピー用紙、水性マジック		

PICK UP

ピクトグラムの歴史

現在目にしている「ピクトグラム」の形が世に広まったのは1964年の東京オリンピック以降でした。

当時の日本人の英語力では、来日した外国人と十分なコミュニケーションをとれなかったため、「誰が見てもわかるマークを作ろう」と一流デザイナーを集結させ、オリンピック競技種目や食堂などのピクトグラムを作成しました。



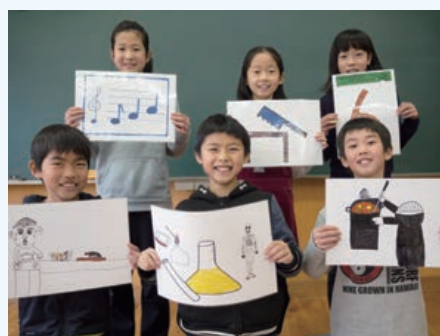
▲1964年当時、新東京国際空港（現・成田国際空港）用に開発されたピクトグラム

PICK UP

制作したピクトグラムは…

ユニバーサルデザインについて考える中で、ピクトグラムの作成は、比較的学校の授業に取り入れやすいプログラムです。

完成したピクトグラムをラミネート加工し、校舎内の各教室に掲示するなど、授業の成果物として活用いただいた学校もありました。



テーマについて

疑似体験を通して、加齢による変化や、障がいについて学ぶことで、周囲の人に対してのかかわり方や、みんなが過ごしやすい環境について学びます。

目標（ねらい）

- ・ 体験を通して、高齢者の心と体の変化・障がいについて学び、思いやりの心を育む。
- ・ 自分の周りで困っている人（高齢者・障がい者だけではない）を見かけたときに自分ができることを考える。
- ・ 相手の立場に立って、どんな配慮があればみんなが過ごしやすいのかを考える。

	学習内容	学習活動
*	事前学習	・ 地域には様々な人が暮らしていることを説明する。 ・ 高齢者や障がい者のイメージや、実際地域で見かける高齢者や障がい者はどんなことが大変そうなのかを話し合ってもらう。 ・ 高齢に伴う心身の変化や障がいの種類などについて説明する。
1	オリエンテーション	・ 事前学習の振り返りと今回の授業について説明する。 ・ 体験時の注意点やポイントを、実演を交えて伝える。
2	体験	・ 二人一組もしくは三人一組となり、一人が装具を着用。 →装具を付けていない人が見守り役（観察役）となり、コースを歩く。 →体験者は当事者の気持ちになって体験する。 →見守り役は体験者はどんなことに困っているか、自分の声掛けは適切かを検証する。
3	振り返り	・ 事前学習時と体験後のイメージがどう変わったか、または自分が普段過ごしている時と比べて、どう不便に感じたかを共有する。 ・ 疑似体験をして不便を感じたときに、どんな声掛けが嬉しかったか。また見守り役はどんな声掛けをしてみたかを聞く。

4	まとめ	・心身の状態や障がいの程度は 1 人ひとり異なっていること、「不便だな」と感じることも 1 人ひとり違うことを伝える。 ・不便とすることについて「こんな環境配慮があれば軽減出来る」ということについて考えてもらう(例：段差をなくす等)。 ・高齢者や障がい者を含む、地域に住む全員が過ごしやすい環境配慮を意識しながら過ごすことが重要であることを伝える。
【必要コマ数】 事前授業：1 コマ (45 分) 体験：2 コマ (90 分～120 分) 【必要な物品】 高齢・障がい疑似体験セット		

PICK UP

高齢・障がい疑似体験セットについて

高齢・障がい疑似体験セットは、聴覚障がいを体験するためのヘッドホン(耳栓)、視覚障がいを体験するための特殊ゴーグル、筋力低下や関節の動きにくさを体験するための手足に装着する重りやサポーター等を身に付けることにより、高齢になった時や障がいを持った際の、身体的機能の変化や心理的变化を疑似的に体験するものです。

<名称と解説>



腰の曲がった高齢者はどのようなことに困っているのか、杖は何のために使っているのか等、様々な体験をすることで、高齢者や障がい者への思いやりの心を学びます。

テーマについて

近年、全国各地で自然災害が頻発しています。それは、南丹市も例外ではありません。災害時には「自助・共助・公助」が大切だと言われています。その中でも「自助・共助」には何が必要なのか。自分の大切な人たちの命を守るためにできることについて考えてみます。

目標（ねらい）

- ・自分たちが住む地域の状況やハザードマップについて理解する。
- ・災害時に自力での避難が困難となる方（災害時要配慮者）がいることを理解する。
- ・非常用持ち出し袋を作成し、自宅でも実際に活用できるものを準備できる。

	学習内容	学習活動
1	導入	・南丹市を含む近年の災害発生状況、地域の危険箇所（南丹市総合防災ハザードマップ）を説明する。 ・学校付近での危険箇所について、意見を出し合ってもらう。
2	地域に暮らす人たちに ついて理解する	・災害時要配慮者となる方たちには、どのような人がいるのか。またどのような配慮が必要となるか、意見を出し合ってもらう。 ・ヘルプマーク、障がい者マークについての説明を行う。
3	非常用持ち出し袋を 作ろう	・非常用持ち出し袋作成カードを使用し、オリジナルの非常用持ち出し袋を作成する（実際の重さになるようにペットボトルの水などで調整する）。
4	振り返り	・自分がどんな非常用持ち出し袋を作ったのか、発表してもらう（全員で一斉にもしくはグループごとに行う）。 ・今回作った非常用持ち出し袋（中身のメモ）を持ち帰ってもらう。

5	まとめ	・災害時だけでなく、普段から地域には様々な立場で生活している人がいることを説明する。 ・災害時には何よりも自分の命が大切であることを伝える。
【必要コマ数】 1～2コマ(45～90分) 【必要な物品】 非常用持ち出し袋作成カード		

PICK UP

「非常用持ち出し袋作成カード」について

このカードはオリジナル非常用持ち出し袋を作成するためのツールです。昨今は店頭で持ち出し袋を購入することが出来ますが、中には自分にあまり関係ないものが入っている場合もあります。

このカードは非常時に本当に自分が必要なものは何なのかを考えるきっかけとなります。



<進め方>

- ①災害時に使用する道具が描かれたカードの中から、自分が必要だと感じたものを数種類選択する。
- ②カードに記載してある道具の重さをすべて足し、自分が作成した非常用持ち出し袋の重さを計算する。
- ③上記にて計算した重さと同じ重さになるようにペットボトルに水を入れ、リュックに入れて背負ってみる。
- ④リュックが重い場合は、持ち出し袋の内容を見直す。

「防災クロスロード」について

災害の備えをどうするか、大地震が起こったらどう対応するか。私たちの日常生活における思いもよらない「決断すべき場面(分かれ道)」を描いたゲームが「防災クロスロード」です。

防災授業の別プログラムとしての導入をお勧めします。



例) クラブ活動中に震度7の地震が発生。生徒は校庭に避難したが、親友の姿が見えない。余震が心配される中、あなたは親友を探しに行く？行かない？

テーマについて

南丹市内には、定期的にご近所同士で集まってお茶やレクリエーションを楽しむ「ふれあい・いきいきサロン」が約 120 か所あります。

地域のサロンと交流することで、児童や生徒であっても「地域の一員としてできる役割がある」という気づきを促します。また、サロン参加者との触れ合いを通して、自分の住んでいる地域への視点が変わり、新しい発見や新しい人とのつながりが生まれます。

目標（ねらい）

- ・地域の方々との触れ合いを通して、地域の方々を身近に感じることができる。
- ・高齢者と子どもの顔の見える関係づくりが構築され、お互いの見守りにつながり、安心・安全な地域が実現できる。
- ・高齢者の生きがいにつながり、子どもたちは先人の知恵や歴史を学ぶ。

	学習内容	学習活動
*	事前学習	・訪問予定の地域について調べてもらう。 ・サロンとは何かを自分たちなりに調べてもらう。 ・サロンの人たちに聞いてみたいことを考えてもらう。
1	交流	・サロン参加者から地域の歴史や伝統文化などを紹介する。 ・サロンで行っているレクリエーションや体操を一緒に行う。 ・児童からインタビューやゲーム、歌などを披露してもらう。
2	まとめ	・サロン参加者から「なぜ、おじいちゃんやおばあちゃんはサロンに集っているのか」など想いを伝えてもらう。
3	発展学習	・実際に触れ合う中で、どんな気づきがあったのか、お話が聞けたのかなどを話し合ってもらう。 ・お手紙や感想文などを作ってもらう。 ・サロン交流をきっかけに、自分の住んでいる地域にはどんな集いの場があるのか調べてもらう。 ・交流をきっかけに登下校時高齢者へ挨拶してもらう。
【必要コマ数】 事前授業：1 コマ（45 分） 体験：2 コマ（90 分～ 120 分）		

テーマについて

ボランティア活動には様々なものがありますが、私たちが暮らす地域でも、ボランティア活動が行われています。ボランティア活動について学ぶことで、活動を身近に感じ、興味を持つきっかけをつくれます。

目標(ねらい)

- ・ ボランティア活動がどんなものかを知る。
- ・ ボランティア活動者の思いに触れる。
- ・ 自分にできそうなことや、将来してみたいことなどを自由に出し合う。

	学習内容	学習活動
1	導入	・ ボランティア活動とはどんなものかを知ってもらう。だれもが地域の中で幸せに暮らしていくために、できることを出し合う活動であることを伝える。 ・ 南丹市内でも様々なボランティア活動があることを紹介する。
2	ボランティア活動をしている方の話を聞こう	・ 実際に地域で活動をしている方に来ていただき、話してもらう。 ・ 活動に対する思いや、具体的なエピソードなどをお話いただく。
3	グループワーク	・ ②の話を聞いた感想、自分にできそうなこと、いつかできたらいいなことなど、自由に出し合い、ボランティア活動を見近なものとして考えてもらう。
【必要コマ数】 1 コマ (45 分～ 50 分) 【必要な物品】 ボランティア紹介冊子		

PICK UP

南丹市のボランティア活動

現在、南丹市社協には約 1,700 名の方々がボランティア登録をされています。活動の内容も様々で、地域のイベントでサックスや手品を披露するボランティアや、視覚障がいをお持ちの方に向けて行政の広報誌を音訳するボランティア等、多岐にわたっています。

04

福祉教育で使える！貸し出し物品一覧

福祉教育にて使える様々な貸し出し物品を紹介します。各町域を越えての貸し出しも承りますので、お気軽にご相談ください。

本…本所

園…園部事務所

八…八木事務所

日…日吉事務所

美…美山事務所

番号	物品名	解説	個数	写真
1	車いす	自身での操作はもちろん、介助者が後ろから操作することも可能なタイプの車いすです。使い方のレクチャーも承ります。	園…5 八…5 日…5 美…5	
2	高齢・障がい 疑似体験セット	高齢者の日常生活を体験するためのセットです。重りの入ったサポーターやゴーグル、ヘッドホン等が入っています。	園…3 八…2 日…1 美…4	
3	アイマスク	視覚障害体験用のアイマスクです。感染症等の予防のため、アイマスクと顔の間にティッシュや布を挟んで使用して下さい。	園…40 八…10 美…20	
4	ゴーグル	視覚障害（全盲や弱視）体験用のゴーグルです。様々なフィルターを装着することで、アイマスクとは違った体験が可能です。	園…6	
5	ヘッドホン	聴覚障害体験用のヘッドホンです。高音域が聴こえにくく設計されており、老人性難聴の体験が可能です。	園…6	
6	ユニバーサル デザイン仕様 自動販売機パネル	プログラム②「ユニバーサルデザインについて考えよう」にて使用する、実寸大の自動販売機のパネルです。	園…1	

7	防災クロスロード	災害への備えをどうするか、大地震が起こったらどう対応するか。そのような決断の分かれ道を考えるカードゲームです。	本 … 1	
8	非常用持ち出し袋作成カード	オリジナル非常用持ち出し袋を作成するためのカードです。カードにはグッズの使い方や重さが記載されています。	園 … 1 ハ … 1 日 … 1 美 … 1	
9	パワーポイント資料各種	各プログラムにて授業を進行する際のパワーポイント資料も提供します。※一部資料が無い場合もあります。	園 … 1 ハ … 1 日 … 1 美 … 1	

生徒や保護者の方よりいただいた感想



小学校 4 年生

みんな一人ひとりが幸せになるためには、周りの環境やその人に対する優しさが必要なんだと分かりました。

車いすは楽しいと思っていたけれど、意外と難しくて足の不自由な人は毎日こんな生活をしているんだなと思いました。



小学校 4 年生

私は最初「福祉」とは何なのかあまり分かりませんでした。でも社協の人が説明してくださって、ということか少し分かりました。

みんな一人ひとり違う幸せだけど、それを手伝えるのは大切なんだと思いました。



中学校 1 年生

自分たちの住んでいる町が、昔台風の被害に遭ったことを知って驚きました。

災害が起こった時に、お互いが助け合えるように日ごろから近所の人たちと挨拶などのコミュニケーションを取っていきたいと思いました。



保護者の方より

「福祉って何だろう?」「幸せとは?」と普段あまり考えたことがなかったので、新たな気づきがありました。

福祉とは普段あまり関係ない様に思っていたのですが、実は身近で自分でもできる事が沢山あるように感じました。



保護者の方より

最初車椅子に乗れると聞いて「楽しそう」と言っていた子どもでしたが、いざ乗ってみると「生活するのは大変や」と色々考えている様子も見受けられ、感心しました。今回の授業が頭の片隅に残り、自然と助け合えるようなきっかけになる気がします。

06

連絡先一覧

本所

住所：南丹市日吉町保野田垣ノ内 11 番地
電話：0771 - 72 - 3220 FAX：0771 - 72 - 3222



日吉事務所

住所：南丹市日吉町保野田垣ノ内 6 番地 4
電話：0771 - 72 - 0947
FAX：0771 - 72 - 0732



園部事務所

住所：南丹市園部町小桜町 62-1
(南丹市国際交流会館 1 階)
電話：0771 - 62 - 4125
FAX：0771 - 63 - 5606



八木事務所

住所：南丹市八木町西田山崎 17 番地
電話：0771 - 42 - 5480
FAX：0771 - 42 - 4412



美山事務所

住所：南丹市美山町安掛下 8 番地
電話：0771 - 75 - 0020
FAX：0771 - 75 - 0829

／南丹市／

福祉教育プログラム集

発 行 2020 年 4 月 初版第 1 刷

編 集 社会福祉法人 南丹市社会福祉協議会 地域福祉部

発行所 社会福祉法人 南丹市社会福祉協議会

〒629-0301 京都府南丹市日吉町保野田垣ノ内 11
電話 0771-72-3220 ファックス 0771-72-3222

禁複製



南丹市社協マスコット
ニャンたん